

天文班新聞

編集者

天文班 2学年

こと座流星群 22日極大

今月22日はこと座流星群が最もよく見える(極大)日。そこで意外と知らない流星群のことについて紹介する。流星群というと1月のしぶんぎ座流星群、8月のペルセウス座流星群、12月の双子座流星群、の三大流星群が有名だが、それ以外にも4月、5月、10月、11月に条件が良ければ流星群を見ることができる。



写真1

そもそも流星とは宇宙空間のチリが地球の大气との摩擦で燃え尽きる際に大气やチリの成分が光をだす現象のこと。彗星は軌道の上にチリを放出しており、地球の公転軌道と彗星の軌道が重なる場合、地球がそのポイントにくるとチリがまとまって大气に飛び込んでくるため、大量の流星を見ることが出来る流星群となるのだ。今回のこと座流星群は22日の深夜から23日の未明が見頃で、1時間に10〜15個程度が予想されるが、ときおり突発的に増加する年もある。皆さんもぜひ探してみてください。

「天文班」と見聞きして、天文に関して何かやるのは分かりきったものだと思うが、実際には何をし、何を考えているだろうか。簡単に言ってしまうと、天体観測、夜空を見ている。では、なぜ、私たちは、暑い夏も寒い夜も外に出て、望遠鏡を覗き込むのだろうか。ただただ、星が好きなのかなのでしょうか？と思う人もいるだろう。実際のところ、そうではある。が、それだけではないと私は考える。具体的には、私たちの見ようとしているものは、「星」という枠組みを超えたものである、と。どういふことだ、と思うかもしれないが、一度、あなた自身の経験を思い出してみよう。これまでの人生で、夜空に浮かぶ満天の星を見上げたことは何回もあるだろう。その中で一番美しいと感じた空を想像してみてください。なぜ、その空は美しいのか。あの星は何星で、こっちは…と一つ一つ意識して感じているからだろうか？



写真2

今月の空

- 4月
- 13日 満月
- 22日 こと座流星群極大
- 25日 月・土星・金星が三角に並ぶ
- 28日 新月
- 5月
- 6~7日 水瓶座エータ流星群極大
- 7日 土星の輪の消失

4/13 満月(Pink Moon)

地球と月の距離が1年で最も遠くなる日。いつもよりも小さな月が見られる。

5/7 土星の輪の消失

地球からみて土星が真横を向くため土星の輪が消えて見える。

星を見る意義、天文の意義

否だ。たとえば、あれ北極星だ、とか、あれ何座だ、とか、少し知っていたとしても、空一面に見える星々を全て知っている人など、まずいないだろう。では、なぜ美しいのかと言え、それはスケールの大きさに他ならない。何百光年という規模だからこそ、ただの光の集合体でない、夜の街の無数の街灯やヘッドライトやらとは一線を画すものとなっているのだ。言い換えれば、この広大な宇宙の大きさを感ずることが、私たちの美しさの要因となっているのだ。天体観測をする私たちが追い求めるのも同じ。星の名前や、星座を覚えるのはあくまで表面的なもので、追及の根幹には、この宇宙の規模を体感したいという意欲があると思う。望遠鏡で、より遠くの星を観測できたときは嬉しいし、より綺麗に輝く星を見つけたら嬉し、もっと視野が広がって、いつもの夜空がより美しく感じられる。我々は「星」を見ているのではない、あくまで天文が観測対象なのだ。

引用 写真1 : <https://www.ac-illustr.com/main/detail.php?id=22765258>

写真2 : <https://www.astroarts.co.jp/photo-gallery/photo/54759>